

題材デザイン FIRST STEP ―中学校家庭科―

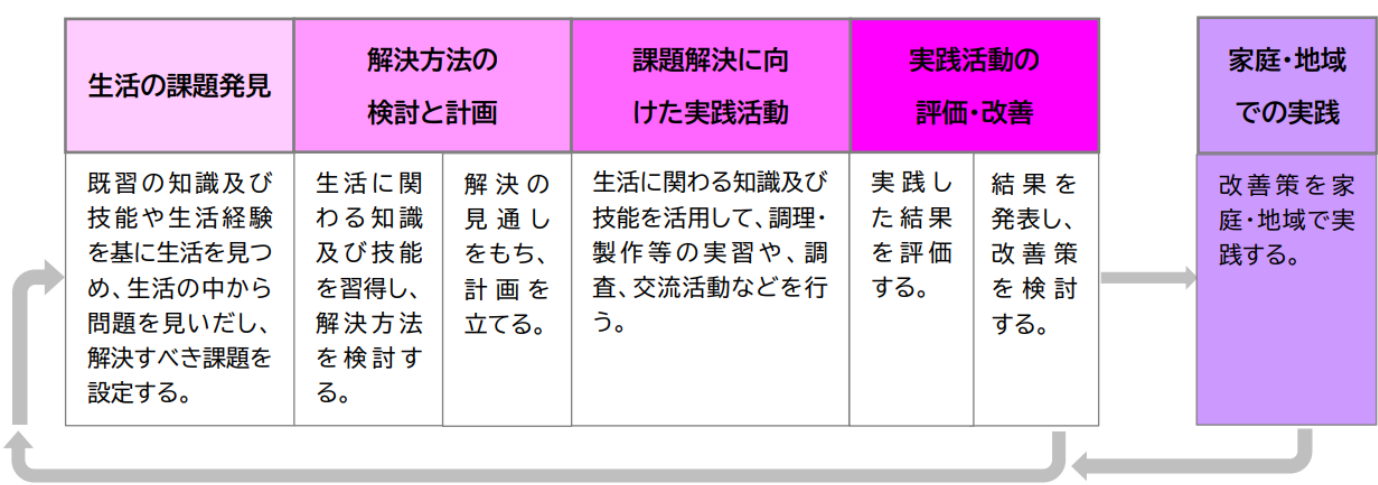
1 題材デザインは何のため？

- 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
- 「指導と評価の一体化」の観点から、題材の指導と評価の計画を作成することが求められています。
- 教師が生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
- 生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。



2 題材デザインの手順

- ① 各学校で作成した年間指導計画で取扱う題材を確認します。
- ② 中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 技術・家庭編(以下、学習指導要領解説)に示されている指導事項を確認します。
- ③ 指導する内容に関する生徒の実態等を踏まえ、より身近な題材となるよう検討します。
- ④ 題材を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、題材の目標を設定します。
- ⑤ 題材を通して身に付けさせたい資質・能力を育成するために、以下に示す4段階で構成される一連の問題解決的な学習過程(以下、「一連の学習過程」と示す)を基に、指導と評価の計画を立てます。



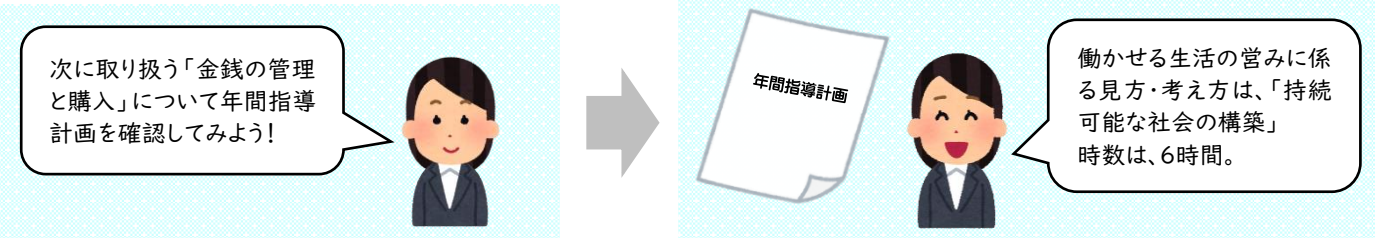
※上記に示す学習過程は例示であり、上例に限定されるものではありません。

学習指導要領解説p. 65を基に作成

題材デザイン的具体(例)

内容のまとめり 第1学年「C 消費生活・環境」(1) 金銭の管理と購入
【具体例】「目指そう！賢い消費者」

- ① 各学校で作成した年間指導計画で取扱う題材を確認します。
→ 年間指導計画において、題材の内容やその題材において働かせる生活の営みに係る見方・考え方、時数等を確認します。※年間指導計画に生活の営みに係る見方・考え方についての記載がなければ、教科書で確認しましょう。



- ② 学習指導要領解説に示されている指導事項を確認します。
→ 学習指導要領解説において、当該内容項目における指導事項の具体を確認します。



- ③ 指導する内容に関する生徒の実態等を踏まえ、より身近な題材となるよう検討します。
題材の設定に当たっては、生徒の発達段階等に応じて効果的な学習が展開できるよう、内容「A 家族・家庭生活」から「C 消費生活・環境」までの各内容項目や指導事項の相互の関連を図ることが大切です。また、地域や学校の実態、生徒の興味・関心等に応じて、より身近な題材を設定することが大切です。



「目指そう！賢い消費者」という題材を設定し、鈴木家(家族構成：父、母、子ども4人 / 半年後に高校進学のため1か月の収入ほどの金額を支出する予定あり)が自転車を購入する際の物資・サービスの選択、購入方法、支払い方法等について考えることにしました。



④ 題材を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にし、題材の目標を設定します。

題材の目標は、学習指導要領解説に示された家庭分野の目標並びに題材で指導する項目及び指導事項を踏まえて設定します。

【題材の目標】

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解するとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。	物資・サービスの選択・購入について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして、課題を解決する力を身に付ける。	よりよい生活の実現に向けて、金銭管理と購入について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

⑤ 題材を通して身に付けさせたい資質・能力を育成するために、「2 題材デザインの手順」で示した一連の学習過程を基に、指導と評価の計画を立てます。

題材を通して身に付けさせたい資質・能力を育成するために、一連の学習過程を基に、指導と評価の計画を立てます。下に示す「指導と評価の計画を作成する際のポイント」を御参照ください。学習評価の詳細については、「[学習評価の進め方](#)」及び「[学習評価 FIRST STEP](#)」を御参照ください。

指導と評価の計画を作成する際のポイント

【生活の課題発見】

- ① 当該内容における「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、自分の生活の実態に基づいて問題を認識し、解決すべき課題について考え、課題を明確にします。
- ② 見通しの場面では、「何のために学習するのか」、その目的を明確にすることによって生徒が学ぶ意義を自覚できるようにします。

【解決方法の検討と計画】

- ③ 生活課題を解決するための根拠となるような知識及び技能を習得する場面を設定します。
- ④ 解決策を計画する際、他者からの意見等を踏まえて計画を見直し、最善の方法を判断・決定できるようにします。

【課題解決に向けた実践活動】

- ⑤ 習得した知識及び技能を活用し、調理・製作等の実習や、調査、交流活動等を通して、課題の解決に向けて実践する場面を設定します。

【実践活動の評価・改善】

- ⑥ 実践した結果を振り返り、考察したことを発表し合い、他者からの意見を踏まえて、さらに改善策を検討する場面を設定します。
- ⑦ 考察したことについて根拠や理由を明確にして筋道を立てて説明したり、発表したりできるようにします。

指導と評価の計画(例)

過程	時間	○ねらい・主な学習活動	
生活の課題発見	1	○自分や家族の物資・サービスの選択・購入について振り返って問題を見だし、課題を設定することができる。 ・自分や家族の消費行動について振り返り、物資・サービスの選択・購入に関わる問題点を発表し合い、課題を設定する。 ・本題材の見通しをもつ。	①生徒が「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせ、自分の生活の実態に基づいて問題を認識し、解決すべき課題について考え、課題を明確にします。
	2	○多様化した購入方法や支払方法の特徴について理解することができる。 ・無店舗販売などの利点と問題点について知る。 ・支払時期の違いによる特徴と三者間契約の特徴について知る。	②見通しの場面では、「何のために学習するのか」、その目的を明確にすることによって生徒が学ぶ意義を自覚できるようにします。
解決方法の検討と計画	3	○多様な支払方法に応じた計画的な金銭管理の必要性について理解することができる。 ・優先順位や支出項目を調整し、家族が健康で快適な生活を送るための収支の調整方法を検討する。 ・検討したことをグループ意見交流する。 ・鈴木家への金銭管理におけるアドバイスを考える。	③生活課題を解決するための根拠となるような知識及び技能を習得する場面を設定します。
	4	○売買契約の仕組み、消費者被害とその背景、対応について理解することができる。 ・物資・サービスの選択・購入の際に成立している売買契約について知る。 ・消費者被害が発生する背景や被害を回避する方法や適切な対応の仕方などについて調べ、発表し合う。	④解決策を計画する際、他者からの意見等を踏まえて計画を見直し、最善の方法を判断・決定できるようにします。
課題解決に向けた実践活動	5	○物資・サービスの選択に必要な情報を適切に収集・整理し、情報活用して購入について考え、工夫、検討することができる。 ・各自が鈴木家の購入する自転車について必要な情報を収集・整理を行う。 ・収集・整理した情報から、購入する自転車を選択する。	⑤習得した知識及び技能を活用し、調理・製作等の実習や、調査、交流活動等を通して、課題の解決に向けて実践する場面を設定します。
実践活動の評価・改善	6	○購入する自転車についてグループで発表し合い、評価・改善することができる。 ・意見交流を踏まえ、物資・サービスの選択・購入に必要な情報を改めて見直し、鈴木家にふさわしい自転車を再度選択する。 ・自分が考えるよりよい物資・サービスの選択・購入をまとめる。 ・題材の振り返りを行う。	⑥実践した結果を振り返り、考察したことを発表し合い、他者からの意見を踏まえて、さらに改善策を検討する場面を設定します。 ⑦考察したことについて根拠や理由を明確にして筋道を立てて説明したり、発表したりできるようにします。

上記の留意点を踏まえた題材の指導と評価の計画(例)を右に示します。

